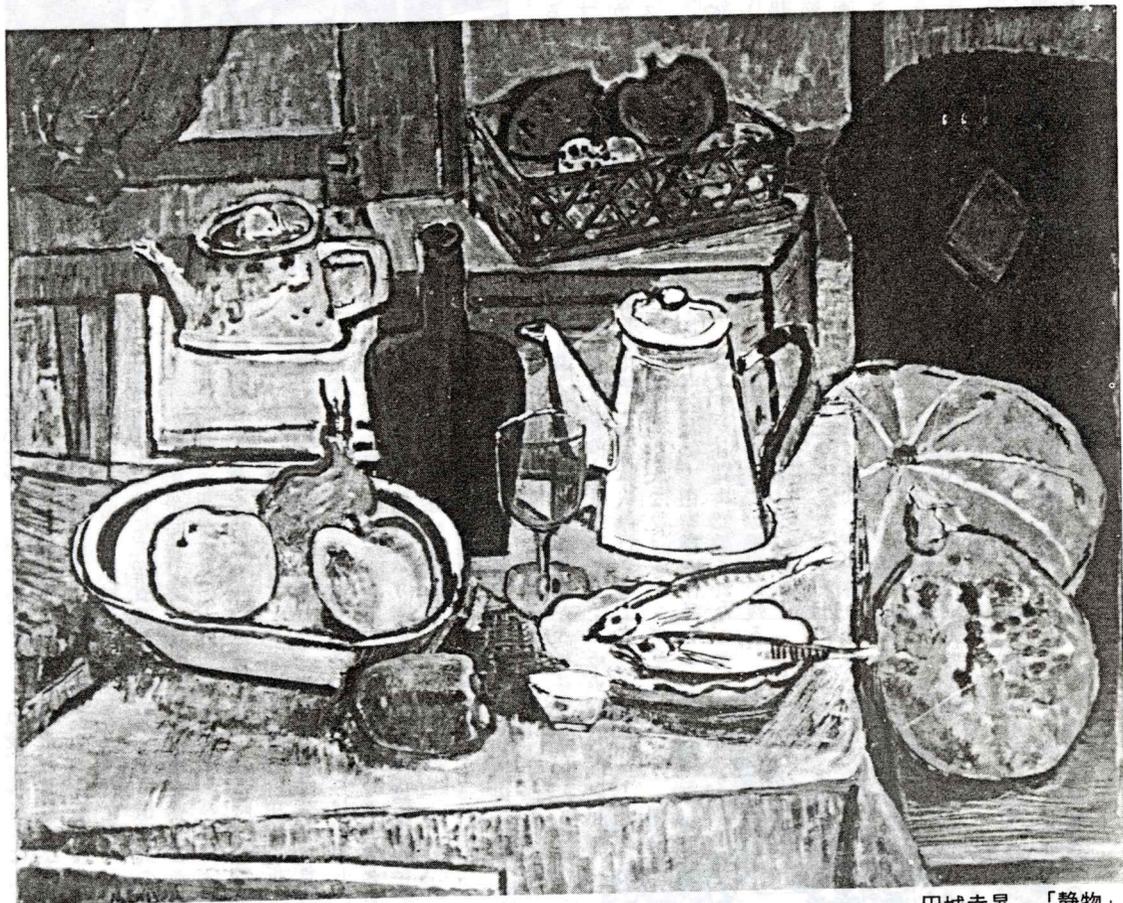


# みる つくる がたる



円城寺昇 「静物」

## 観潮台

画家と俳句その後

美術家には意外なほど俳句の実作者が多い。なかでも画家が目立つ。浅井忠はその一人で、二十三才の夏の「筑波日記」には、青年時代の作品があつて若い頃から親しんだことをしのばせてくれる。

こうしてフランス留学時代には盛んに実作している。

紅葉して訪ふ客もあり山住ひ秋雨や書院に基客請しけり  
秋雨や牧場に牛の寒げなる  
寒月や乞食車の犬吠ゆる

寒月や古城の上を天狗飛ぶ  
馬小屋のわきに一株水仙花

水仙や胡粉はげたる銀屏風  
水仙や薬局にならぶ薬瓶

二千年の神立ち給ふ夏野かな  
などと、俳句に季節のなかの

万象への印象を託している。

いま浅井忠の「木魚俳句拾遺」を編んでいるが、浅井は

日記や葉書、あるいは手帳に

絵のような俳句をよく書き残

している。フランス時代には

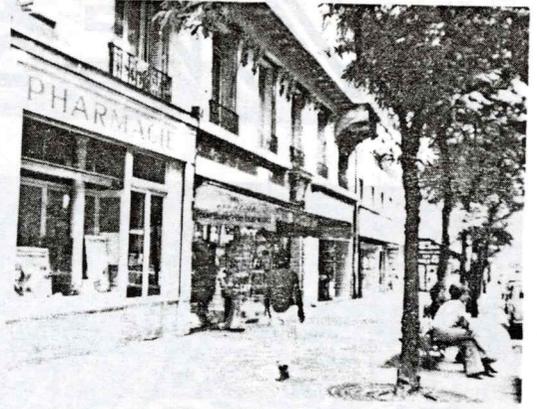
巴会(外面笑会)という句会

や、友人歓迎句会まで開いた

俳狂的な一面もあり、しかも、  
画家の眼をしのばせる感性の  
結晶が多く、風景画家としての  
の根底にまで思いを拡大して  
いるところである。(高橋在久)

# 浅井忠の原風景

高橋在久



パリ・マラコフ通り28番の浅井の宿（中央1階は書店）

ことし、きよねん、おとしと続けて三回、日本の近代美術史のルーツを求めて、ヨーロッパを歩いてきた。こうして、特に洋画界で先駆的な幅広い活動をした、千葉県佐倉藩出身の浅井忠が、四十四歳の東京美術学校教授として、一九〇〇年（明治三十三年）から二年余の間、「西洋画研究ノタメ」留学したフランス時代を探访することができた。

いま国指定重要文化財になっている、浅井の作品「春歌」と「収穫」は、一八八九年とその翌年に発表したものであ

る。風景画家としての非凡な才能を社会的に示した作品だが、その真髄の發揮はフランス時代にグレー村に移住し、「グレーの景色をかき尽してやらん」（『愚劣日記』）と、「グレーの秋」や「グレーの洗濯場」などの連作を描いて、季節との交感が結晶し、力量を画面に傾注してからだと評価されている。

このグレー村は、パリ南東約八十キロ、広い畑の続く人口七二〇人ほどの農村で、セーヌ河の上流になるロアン河の河岸段丘に位置し、豊かな森と水や十二世紀の史跡ギヤンヌの塔などがある。しかも、北方には日本人旅行者もよく訪ねる、広大なフォンテンブローの森や、山梨県が作品を購入して一躍再認識された、ミレーの画室や原風景が残るバルビゾン村などもある。

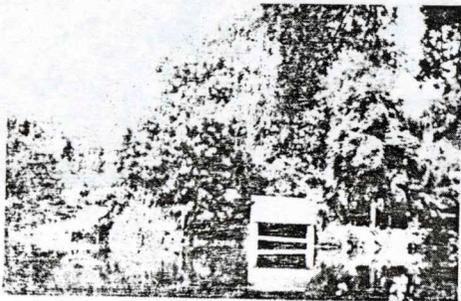
浅井はこうしたグレー村のウイルスン通り一四番のオテル・シュビヨンを拠点にした。一九〇一年十月一日から翌年三月二十一日まで、洋画家で後に文化勲章を受けた和田英作と二人で滞在し、いわゆるグレー村の連作を描いた。このオテル・シュビヨンはそ

らはじめたグレー村を訪ねている。「此夜村落を散歩す。明月野径を照して景色得も云われず」と書き、翌日は「村落を散歩し小川の傍にて写真又写生す。終日野外に遊び暮して仙郷にあるの思ひあり。一日帰巴する筈なるに興未だ尽きず又一泊す」とあるように、浅井は村の風景に魅了され、ついには長期滞在まで決意した。

このグレー村は、パリ南東約八十キロ、広い畑の続く人口七二〇人ほどの農村で、セーヌ河の上流になるロアン河の河岸段丘に位置し、豊かな森と水や十二世紀の史跡ギヤンヌの塔などがある。しかも、北方には日本人旅行者もよく訪ねる、広大なフォンテンブローの森や、山梨県が作品を購入して一躍再認識された、ミレーの画室や原風景が残るバルビゾン村などもある。

## 季節との交感

村の小さなオテルに泊って



「グレーの洗濯場」の原風景

の後、事務所に転用されていてその面影はない。ただ、浅井によって描かれた中庭のプラタナスやマロニエが巨木に育ち、地下横穴式の井戸を利用した洗濯場などから、オテル時代をしのぶのだが、ここには、当時パリ留学中の美濃部達吉、中村不折、など後に日本の学芸を背負った人たちが、時には参集し巴会と称し夜を徹して句会を開いた、俳句文芸の意外史も秘められている。

確認した、グレー村の連作の原風景には、晩秋に一回と盛夏に二回直面し、実感を深めてしみじみと浅井の心情を回想したが、ロアン河の岸辺には七十数年の歳月がなかったように、「グレーの秋」「グレーの橋」さらに「グレーの洗濯場」「グレーの塔」などの原風景が存在し、画集や展覧会で見られた作品を連想した。こうして、秦恒平氏が「私は、浅井忠がこれらの風景画で一等念頭に置いているらしいものを季節との交感だと思った。露骨にいえば俳句の季節のようなのを画面の空気として表現しようとしている。」と、「月皓く」（集英社刊）所収の「糸瓜と木魚」に書いた、浅井への評価のことばを訪ねる度に反響し共鳴した。

グレー村には、浅井以前にすでに黒田清輝が長期滞在し画作に励んだ歴史がある。こうして、両者の系譜に属する多くの日本人画家が訪ねて作品を残している。戦後には石井柏亭夫妻が滞在し、ことしの春には東山魁夷夫妻もこの村を訪ね、日本近代美術史を考えられたという。（千葉県立美術館 副館長）

房総の美術家シリーズ?

菅谷元三郎、円城寺昇展をまえに

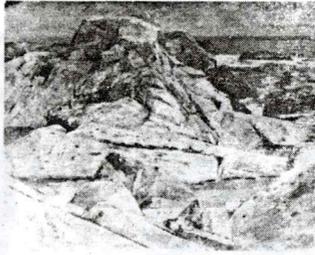
会期 12月20日～53年1月25日

本館では、房総に生まれ、あるいは、定住して近代日本の美術界において活躍し、美術振興のために貢献してきた美術家たちの再発見と顕彰を行ってきました。今回の展覧会は、房総の地に生まれ、育ち、房総の自然や人生をひたすら追い求め、昭和初期から第二次大戦前後の激動の時代に、帝展、文展、日展を中心に舞台に多くの作品を発表し將來の大成を期待されながら、おしくも、戦後の混乱期に半世紀の生涯でこの世を去った二人の洋画家「菅谷元三郎」「円城寺昇」の作品を展覧し、その画業を紹介します。

菅谷元三郎は、明治三十年、千葉市内、藤井家に生まれ、旧制千葉中学校卒業後上京して太平洋画会研究所で絵画を学び、中村不折、満谷国四郎に師事し、大正十二年、関東大震災で焼失した母校、太平洋画会研究所の再建に奔走、この年、香取郡干潟町の菅谷家の養子となり、同十四年、千葉市幕張に転居するまでの

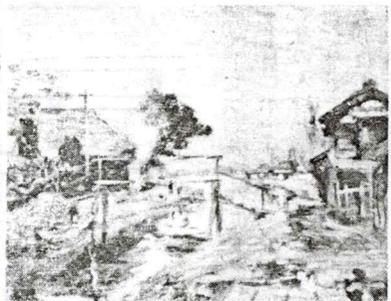
間、優れた人物描写力を生かし、北総地域で主に肖像画を描き、幕張のアトリエに住んでからは、房総の人々の生活や人生をモチーフに制作活動に取り組み、昭和五年、第十一回帝展に「老人の像」を出品、初入選以後「老人と石臼」「農家の人々」「農家の娘達」等を帝展、文展に発表、その間同十年には帝展無鑑査となりました。さらに、太平洋画会会員として中央画壇で活躍するとともに、昭和十一年創立

円城寺昇「岩」



の千葉県美術協合理事として、県美術振興に尽力したが、同二十一年八月、五十歳でこの世を去りました。

菅谷元三郎「風景」



円城寺昇は、明治三十四年、香取郡小見川町に生まれ、茂原中学校卒業後、昭和二年、東京美術学校西洋画科に入学、藤島教室に入り、青山熊治に師事し、昭和五年、東京美術学校在学中、第十一回帝展に「風景」で初入選、以後房総の自然をモチーフにした作品を中心に制作、帝展、文展、日展、および、昭和十五年創元会の創立以来同展に多くの作品を発表しています。その間、帝展無鑑査、岡田賞受賞、昭和二十七年には日展出品依頼者となり活躍を期待されたが、おしくも翌二十八年九月、五十二才で死去。

この展覧会では、二人の代表作を展覧し、半世紀にわたる彼らの芸術を紹介します。

特別展「海と湖沼展」は七月一日から一カ月間開催し、約七千人の入場者がありました。

本館ではこの特別展を観覧された入場者を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、予想通りの傾向や、意外な事実などが明らかになりました。

まず入場者総数については、一般的な傾向である土曜、日曜の入場者が多く、また、各学校が夏休みとなった、会期後半からの入場者の増加が目立ちました。

入場者の年齢別では大人がいちばん多く、次に大学生、中学生、高校生、小学生の順で、この傾向は、やはり本館が交通不便な場所にあるためなのでしょう。

また入場者の地域別の分類では、「千葉市内」が圧倒的に多く、全体の60%、次に「市外」「県外」の順でした。「市外」の内訳では、船橋市が最も多く全体の15%次に習志野市、茂原市、市川市、木更津市、四街道町などの順となりました。特に注目すべきことは、県内の全市町村よ

特別展に全市町村より来館

「海と湖沼展」アンケートより

り多くの皆様が来館されたことでした。さらに東京都からも多くの入場者があったことは、いままでの予想を破るうれしい事実となりました。

「この展覧会を何で知りましたか」という問いに対しては、「新聞などから」がいちばん多く、全体の10%で、マスコミによる影響の強さがあらためて認識されました。また、ポスター、チラシ、千葉駅前横断幕などの一般的な広報活動によって特別展を知った人が多くありました。

しかし、「学校から」知ったと回答した人は意外とすくなく、考えさせられる結果でした。

なかでも、「友人より」という回答が展覧会期の後半になって増加したことは、展覧会が好評となれば、その評判が広まり、より多くの入場者を得ることを示してくれました。

このアンケートにより、県内の全市町村より来館されるといううれしい事実や、その他、今後の参考となる点が明らかになり、御協力くださった方々にあつく御礼いたします。

# 入館者30万人突破 さかんになる団体展



第29回県展

第二十九回千葉県美術展覧会が、十一月二日より十三日まで、本館で盛大に開催され、いよいよ秋も深まってまいりました。

この県展は、本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資するため開催するもので、日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の五分野に分かれて展示されています。展示作品は、県美術会の会員の作品と、本県在住者及び本県出身者で、満十九才以上の方から

一般公募された作品です。展示室は七室あり、第一室では日本画、二室で工芸・三・四室で書道、五・六室で洋画、それに七室では彫塑が展示されています。

この様に、県展は全展示室を活用し開催されますが、九月を中心に、県民の多くの方から、県展に出品したいがどうしたらよいかという問い合わせがあり、年々一般の方々の参加が多くみられるようです。この県展に出品する希望が増加したのは、本館で開館以来利用されている美術団体の会員からの要望が大きいのではないかと思われまます。

そこで、本館では、開館以来、県民に愛され親しまれる美術館、県民と美術家との交流の場としての美術館、明かしく楽しめる美術館等、多くの基本方針のもとに、本館の企画展以外に団体展の美術館利用ということの普及に努めてきました。ちなみに、開館初年度から本年度までの団体展の利用数を数えてみると、昭和四十九年度が七団体、五十年が二十一団体、そして昨年の五十一年度が三十二団体を利用しております。また本年度はさらに団体展の数が

増え四十三団体となり、一昨年に比べ二倍に増加しております。このように、美術団体が本館を利用するようになってきた陰に県展に出品してみようという方々が増えてきたものと考えられます。このように美術館が開館され、それに伴って新しい美術団体が結成され、あるいは中央で行なっていた本県関係者が、千葉県内に支部を置き、大きな団体の支部展として開催されるのも多くみられました。特に千葉市小中学校児童生徒作品総合展覧会の開かれた十月十六日には、入館者が四千人を超え、開館以来の累計入館者数は三〇万人を突破しました。このように美術館を利用して成果をあげてください。しかし、一年間に四十以上の団体が利用するとすると、どうしても芸術の秋を望むのは考えられることですが、やはり各団体の方々のやりやすいように、調整し、年間計画の中に組み入れたいと思います。十二月月上旬に、美術館利用団体の調整会議を行う予定でありますので、新しく利用したい団体は、来館の上、学芸課企画展示班までおいで下さい。御相談に応じます。

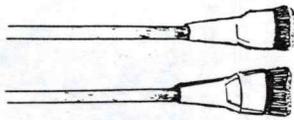
## 《美の根》 筆

渡辺 学  
(日本画家)

日本画の道具としては筆が重要でその種類も多い。その中で私の重宝する筆に削用筆と平筆がある。

削用は線引きが主だが、この筆一本あれば太い細い大小いずれの線も思いのままに引ける。画学生の頃は下宿の襖一杯に模造紙を貼って、立ったままで襖に向かって縦、横、斜め線を一気に描ける所まで同じ力の墨

中で凸凹の出ないように息を止めて引く練習をした。1m以上の強い直線が引けるようになった記憶がある。削用はその他彩色にも、ほかにしにも使えて神さまみたいな筆です。平筆は穂先きをき、号と二種類に切り落して、それぞれ軸に近い毛の部分の部分を極く薄い膠で固めて毛先の短い平筆を作り画面の物の輪郭の周囲の滯れている内に力一杯火花でも出るような勢いで墨をふくんだ平筆で線引きをする



削用筆 平筆

と強い特種な線が引けました。そして気持ちの上でも絵と自己が一体化して制作に身の入った事を経験出来ました。また、線だけでなく平ぬりにも使用すると面白い面が出来ます。

# 本館企画の展覧会案内

常設 房総の美術家

「収蔵作家20人展」

12月1日～2月19日

本年度、三期にかけて開催してきた常設展も、いよいよ十二月一日から五十二年二月十九日まで第三期の展示を行います。

第三期は、「収蔵作家二十人展」というテーマで、開館以来企画展等できり上げ、かつ作品の収集に努めてきた人々を一堂に展覧します。

二十人とは、もうなじみ深い浅井忠・香取秀真をはじめとし、鈴木鷺湖・石井林響・若木山・田岡春径（以上日本画）、都鳥英喜・原勝郎・石橋武治・椿貞雄・渡辺百合子（以上洋画）、浜口陽三・深沢幸雄（以上版画）、大須賀力・大川逞一（以上彫塑）、津田信夫・信田洋（以上工芸）、鱧松塘・江川碧潭・浅見喜舟（以上書）の人々です。これらの人々は、美術史上に名を残し、あるいは現在中央の美術界又は国際舞台で活躍しています。この多彩な作家等の作品を展示す

ることにより、中広く「房総の美術家」を紹介し、年間を通じて行った常設展のしめくくりとします。

原勝郎「街灯のある風景」



## 千葉県移動美術館

開幕する

県立上総博物館  
於 県立安房博物館

本県初の千葉県移動美術館は、十一月三日（文化の日）、第一会場である県立上総博物館で開幕しました。

当日は木更津市教育委員会などから多数の来賓を迎え、本館職員による列品解説も行われ、好評のうちにも多くの方に御覧いただきました。

上総博物館では十一月十三日まで開催しますが、さらに県立安房博物館において次のように開きますので、この機会に県立美術館所蔵の三十三点の名品をじっくり御鑑賞ください。

会期 52年12月4日～18日

開館時間 9時～4時30分

分 月曜休館 無料

会場 県立安房博物館

〒577-2266

国鉄館山駅下車徒歩15分 駐車場あり

## 第11回

### 現代美術選抜展

1月29日～2月17日

各美術団体が中央において実施している美術展覧会の受賞作品を一堂に集めて現代美術の動向をひろく一般に紹介し、美術の振興をはかるために、文化庁が企画したもので、東日本では、本館だけで公開されます。

展示する作品は、団体展における受賞作品を中心に、日本画、洋画、彫刻など約七〇点です。

本県関係の出品作家は、次のとおりです。後藤純男、石川三知代、高畑郁子

## 特別展

### 東山魁夷展

3月4日～3月31日

東山魁夷氏と千葉県とのかわりは、昭和二十年氏が市川に移り住んだことにより始まりですが、同二十二年日展に発表した「残照」は千葉県の九十九谷を描いたもので、東山芸術の誕生を告げる作品です。以来、今日まで多くの作品を発表し、いよいよ高い円熟境を示しています。

そこで「残照」から「唐招提寺障壁画」までに至る代表作や発表以来久しく公開の機会

会のなかった作品、試作、下絵、スケッチ、原稿を含めた著作類等を展示し、東山芸術の軌跡をたどります。

◆講演会のお知らせ

演題 美との巡り合い

講師 東山魁夷氏

日時 53年3月18日(出)

午後2時より 無料

会場 千葉市民会館

聴講希望者は往復ハガキで県立美術館東山魁夷講演会係宛五十二年二月十日までに申込んで下さい。応募多数の場合は抽選です。

(募集人員 一、〇〇名)

へ次号で東山魁夷展の特集を行ないます

## 講座のご案内

### ◆実技講座「木版画」

本年度第三回の実技講座は「木版画」です。木版画に関する基礎的な手法を二日間て身につけて下さい。

53年2月18日～19日

講師 未定

### ◆美術を語る会

美術に関する興味深い問

題について語り合い、知識や理解を深めていただくため、次のとおり開催します。どうぞ御参加ください。

11月12日「世界の美術館・博物館、見て歩き」

1月14日「菅谷元三郎

・円城寺昇を語る」

3月11日「特別展東山

魁夷展を見て」

◆ ◆

詳細は美術館学芸課まで

# 新収蔵作品紹介

7月・10月

## 購入

黒田重太郎「浴後」

澤部清五郎作「ハドソン河の朝霧」

小野具定作「遠くなった海」

浜口陽三作「八つのくるみ」

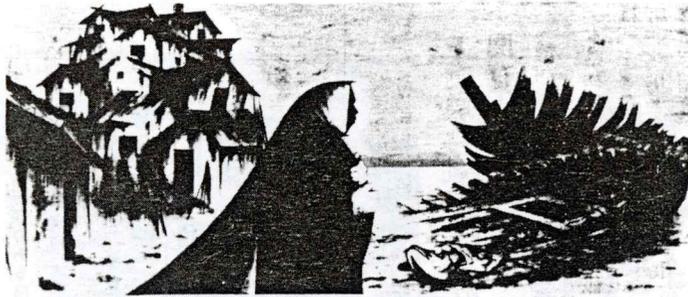
「サクランボと青い鉢」

「二匹の蝶」・「貝」



黒田重太郎「浴後」

池田満寿夫作「白い誘惑」  
「輪の中のヒーナス」



小野具定「遠くなった海」

## 寄贈

左記資料をご寄贈いただき

ました。厚く御礼申し上げます。

黒田暢氏より

黒田重太郎作「女と小犬」

澤部つた氏より

澤部清五郎作「バリ風景」

「婦人像」・浅井忠関係写真  
古井洵氏より

古井洵作「浄土」・「黒の浄土(赤)」

小野具定氏より

小野具定作「漁村」

吉岡堅二氏より

吉岡堅二作「濤」・「馬」

深沢幸雄氏より

深沢幸雄作「古い楽譜」

「渦状生雲」・「民族の宴」

「旗」・「女帝」・「家族」

「人」・「扉と訪問者」・「神威A」

「伝達」・「邪馬台幻想(あけぼの)」

「歌」・「凝視(青)」

「戦慄(トルソ)」

「影(メヒコ)A」

「青い裸像A」

「青い稲妻」

「ピラミッドの下で」

「掌の中の影」

「壁の中の影」

「白い光の塔(グワテマラ)」

「虚空の影」

「神話」

「愛憎」

「はがねの華」

「飛天挽歌」

「固いとりで」

「遺伝(影)」

「遺伝(流れ)」

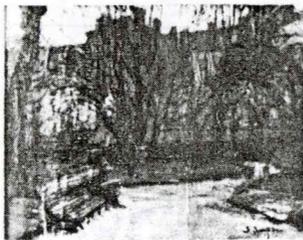
「いしぶみ」

深沢幸雄銅版画集「ボードレール詩集患の華」

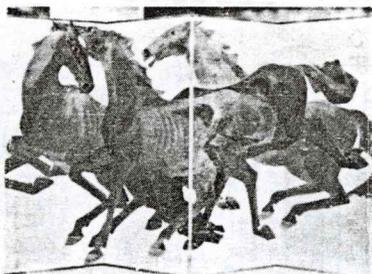
### 保管換

県監査委員事務局より

椿貞雄作「秋果図」



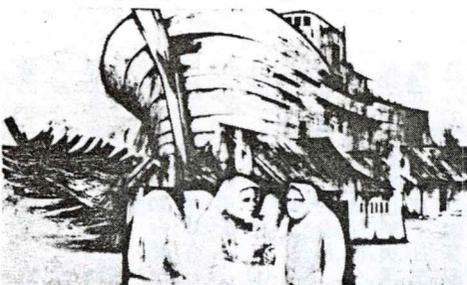
澤部清五郎「バリ風景」



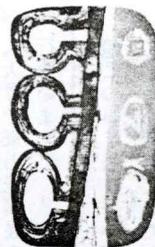
吉岡堅二「馬」



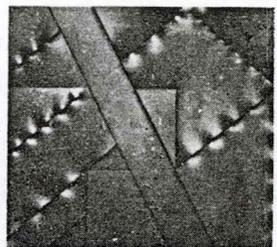
黒田重太郎「女と小犬」



小野具定「漁村」



深沢幸雄「民族の宴」



古井洵「浄土」

# トピックス

## ■年報刊行する

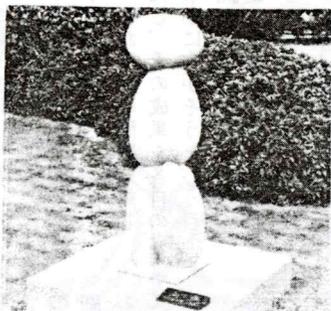
本館では初めての「昭和五十一年度千葉県立美術館年報」が刊行しました。館の沿革、施設内容、組織及び人員、および昨年度の主要記事、展覧会などを一冊にまとめました。美術普及室で御覧下さい。

## ■野外展示第二号完成

—木村賢太郎「立像」—

藤野天光「ああ青春」につづく野外展示の第二号として

木村賢太郎「立像」



木村賢太郎「立像」(一九五六)が玄関左手に完成しました。

木村賢太郎は、柏市在住の彫刻家で、現代彫刻に精進しています。ぜひ御覧下さい。

## ■友の会絵ハガキでさる

美術館友の会は館の建物、館蔵の名作などの絵ハガキをつくりました。館の重厚な外観写真や浅井忠の「農婦」、藤野天光「ああ青春」など、八枚一組です。一組三〇〇円で、友の会事務局で販売中です。

## ■外構工事は十二月に完成

美術館外構整備の第一歩として、駐車場などの拡張、街灯の設置などの工事が、始められ、十二月完成を目ざして工事が進行中です。工事中は不便をおかけします。

## ■県博協会新会長に市原館長

千葉県博物館協会の昭和五十二・五十三年度の会長として本館の市原正夫館長が選出されました。また事務局は本館におかれ、事務局長は本館学芸課の中村哲学芸員が選ばれ、事務を開始しました。

## ■ツバキ寄付される

千葉市緑町の高橋喜一郎さん(友の会評議員)の御厚意により、ツバキを六十本寄付されました。展示棟の中庭や、池の付近に植えられ、来館者の目を楽しませてくれます。

寄付されたツバキ



## 伝言板

- 大木学芸課長は十一月八日から三〇日まで文化庁企画の地方文化指導者海外派遣で訪欧(イタリア、イギリス他)
- 御来館の際には入館票に記入していただくことになりました。今後の参考となりますので、どうぞ御協力ください。
- 玄関前にフラワーポットが設置されました。ちょうど菊の花が咲いて、訪れる人を楽しませてくれてあります。
- 休館のお知らせ  
十一月十四日〜十八日  
十二月二十六日〜一月四日
- 今回の館報より読者の欄として「談話コーナー」をつくりました。館の展覧会や、その他講座等に関する御意見を御寄せ下さい。

## 談話コーナー

このコーナーは皆さんの欄です。御意見等をお寄せ下さい。今回は夏季大学受講に関して、また、信条とする美術論、の二つをとりあげました。

### 夏季大学の日に思う

中村幸子(千葉市)

「夏季大学」は猛暑の日でした。しかし館内は涼しくその上内容のすばらしい講義で充実した日でした。この日昼食の件でふと思う事がありました。私は食事持参でしたので暑さ知らず、しかし約百名からの受講生で食堂は満員。暑い中を外食に行かれる方々の姿をガラス越しに拝見して、大変でも来年はお弁当の希望を取っていただけたら、と、思いました。

### 坪内逍遙論

下村斗三(船橋市)

ります。私共で出来る事はお手伝いさせていただきます。一期一会のすばらしい美術館であるために、ささやかな弁当の件ですが、よろしくお願い申し上げます。

美術とは人文発育の妙機妙用これなり。何を以てか之を謂ふ。美術は人の心目を以て目的となせばなり。心目を娛樂するが故に友愛温厚の風を起し気格高尚なるが故に貧吝刻薄の状を伏す其の製作に頭はるるや絵画彫刻・陶磁・漆器等の神韻雅致となり其の音声姿態に発するや詩歌・音楽・舞踊等の幽趣佳境となる。夫れ人幽趣佳境に逢着し神韻雅致に對峙するや悠然として清絶高遠の妙想に感起せざるなし。是れ之を美術妙機と謂ふ。邦国の文明また実此の機用起因すと謂ふべきなり。美術の事たる豈に亦社会の一大緊要事ならざらむや。

## 関東地区博物館協会研究会 本館にて盛大に開催

昭和五十二年度関東地区博物館協会研究会は、十月十三日、本館で開催されました。

この研究会は関東地区の博物館や美術館が互いに協力し合い、また共通の問題に対して研究し、その成果を各自の館の事業に生かそうという目的で開かれるものです。

当日は県内、県外の博物館などから六十余名の出席者があり、午前十一時より協会副会長の江袋文男氏のあいさつにより開会しました。会長新



あいさつする新井重三会長

館の代表者より実際の体験にもとづく意見が発表されました。利用者の立場を深く認識した上での提案など、興味深い点が多くありました。また最近、話題になっている、「二次資料」の展示方法などについても、多くの意見がありました。

井重三氏ほかのあいさつに続き、本館の展示活動の実際を大木学芸課長が説明し、午後の研究発表では、本館の高橋副館長が「千葉県立美術館における展示と普及事業について」と題し、研究発表しました。この研究発表につづいていくつかの問題点がとり上げられました。

### 工芸界の巨匠 宮之原謙氏が逝去

千葉県工芸界の巨匠、宮之原謙氏(79)は、八月二十三日心不全のため、松戸市の松戸市立病院で逝去されました。陶芸家として著名な氏の代



生前の宮之原謙氏

さらには「普及事業」については、その本質とは何か、など充実した討議が行われ、今後の普及活動を考える上で、大いに参考となる意見が多く述べられました。この研究会の今後の成果が期待されます。

表作を展観する「房総の美術家シリーズ六 現代工芸六人展」の開催を前にして、なくなられた宮之原謙氏は、優れた技法を持つ巨匠でした。

明治三十一年鹿兒島県に生まれ、大正五年に早稲田大学に入学、二十八歳で日本画を山内多門、陶芸を宮川香山からそれぞれ学び、のちに陶芸家板谷波山にも師事し、昭和二十四年より松戸市に住まれ、日展等に出品し、多くの賞を受け、四十八年には日展の参与となり活躍しました。氏の逝去をいたみ、深く哀悼の意を表します。

### 団体展(12月~3月)

- ▼千葉県大学美術連盟展  
11・29 ~ 12・4 無料
- ▼美術館友の会作品展  
11・29 ~ 12・11 無料
- ▼第22回こども県展  
12・6 ~ 12・18 無料
- ▼第3文明展  
12・20 ~ 12・25 無料
- ▼第13回登龍社・宮坂会書初展  
1・6 ~ 1・8 無料
- ▼昭和52年度千葉大学教育学部書道科卒業制作展  
1・17 ~ 1・22 無料
- ▼昭和52年度千葉大学教育学部美術科卒業制作展  
1・24 ~ 1・29 無料
- ▼第30回千葉県小中高校書初展  
1・31 ~ 2・5 無料
- ▼日本習字千葉県書道展  
2・8 ~ 2・12 無料
- ▼子供造形展  
2・21 ~ 2・26 無料
- ▼第3回千葉県写真展  
2・21 ~ 3・5 無料
- ▼習美会新春展  
2・28 ~ 3・5 無料
- ▼千葉市民美術展  
3・10 ~ 3・26 無料
- ▼書星展教育部展  
3・28 ~ 4・2 無料

### 日誌抄(8月~10月)

- 8月 5 常設展第2期はじまる  
第1回夏季大学開催(6日まで)
- 11 千葉テレビ、「世界の子どもの絵展」を取材に来館  
第2回県博協役員会開催
- 9月 31 日本画家岩崎巴人氏来館  
現代工芸六人展はじまる  
「美術を語る会」開催
- 10月 7 八代県議会議長来館  
山梨県財政課より視察のため来館  
51年度年報刊行する  
鹿兒島市立美術館より視察に来館
- 27 20 東京国立文化財研究所松原庶務課長黒田清輝展打合せに来館
- 30 10月 2 陶芸家山本正年氏来館  
第1回美術館協議会開催  
関東地区博物館協会研究会開催
- 13 11 2 木村賢太郎「立像」玄関前に設置される  
千葉市教育委員会会長谷川教育長来館  
武田、富田、両県会議員来館  
県展作品搬入はじまる  
友の会主催見学会(水戸笠間方面)30日まで
- 29 22